

## 平成28年度第2回豊田市図書館協議会 議事録

日 時：平成28年6月21日（火）午後1時30分～午後3時15分

場 所：豊田市中央図書館6階多目的ホール

出席者：豊田市図書館協議会委員 8名（10名中）

          教育行政部・豊田市中央図書館職員（事務局） 8名

### 1 開会

### 2 教育行政部部長 あいさつ

### 3 会長あいさつ

### 4 議題

#### （1）平成27年度事業実績について

（事務局資料説明）

（会長）

ご質問等ありましたらお願いします。

（委員）

資料のⅢ－1にある講座等は誰が企画し、実施しているのですか。ボランティアが企画・運営しているものもあるのでしょうか。

（事務局）

ここに記載のあるものは基本的に職員が企画し、実施します。ただしⅢ－2（3）とよた手作り絵本展実行委員会については、ボランティアで組織した実行委員会で企画等を行い、図書館は支援する立場です。

（委員）

平成28年度の詳しい事業内容は、資料Ⅷの「予算と主要事業」に則したものとなりますか。

（事務局）

その通りです。平成27年度の事業実績を踏まえて28年度事業を企画、実施しますが、委員のみなさんからご意見があればお願いします。

（委員）

先日実施された読書マラソンでは景品が貸出カードでしたが、多くの利用者がどう活用してよいのか分からない様子でした。中央館としては何か狙いがあったのですが、使

用方法などがネットワーク館職員に周知されていなかったため、利用者に伝わらなかったように思います。ネットワーク館でも中央館の狙いがわかる受け答えをできるよう、周知を行っていただきたいです。

(事務局)

景品が毎回同じだと飽きてしまうこともあり、今回は品を変えましたが、おっしゃる通り、何を渡すかではなく、どういう狙いで渡しているかが分かるようにするべきだと思います。

(委員)

先ほどご説明いただいた講座等は、基本的には今年度も続いているのでしょうか。

(事務局)

その通りです。内容については、種類によっては年度ごとで中身が若干異なります。イベント等についても、同じ内容で実施するものと少しずつ変えるものとあります。同じ取組の繰り返しにならないよう、可能な範囲で改善を行っています。

(委員)

選書はどのように行っていますか。

(事務局)

中央館・ネットワーク館は職員・司書が中心で行いますが、ネットワーク館は館ごとに要望を聞き、選書の参考とします。こども図書室はボランティアの中の本の選定委員が選書をしています。

(委員)

人気の本は複本を買いすぎる問題もありますが、そういったことを検討する委員会などがありますか。

(事務局)

資料選定委員会を設置しており、そこで議論しています。

(委員)

専門書など利用が少なくてもそろえておくべき本もありますが、こういったものについても委員会で議論されているのでしょうか。

(事務局)

そのとおりです。専門書や技術書、事典などは高価ですが、調べ物などで継続的に活用できる資料としてそろえます。

(委員)

利用が増えることはいいことですが、それだけが図書館の質を表すわけではありません。誰がどんな本を選定するかが重要です。

(事務局)

長く読み継がせたい本には留意しています。児童書については、良書が古くなってきてしまったため、昨年度買い替えを行いました。また、一つの名作を色々な言語でそろえることで、昨年度の星の王子さまの展示にも活用でき、映画と関連させた見せ方が可能とな

りました。

(委員)

ICタグが入ると貸出は便利になりますが、どのような本が読まれているのか、データでしか認識できなくなります。こういったことは司書が意識すべきです。良書をどのように読ませるかが司書の技量です。司書の技量と努力で図書館は変わります。

資料選定委員会には学校の先生などは入っていないのでしょうか。

(事務局)

入っておりません。

(委員)

選書の方針を市民向けに公表などはしないのですか。利用者からすると、どのように選んでいるのか分かりません。誰がどのように選んでいるのか、公表して市民から意見を募るとよいと思います。

(事務局)

選書の基本方針はホームページで公表していますが、細かい部分は公表していません。説明責任という視点からも考えてみたいと思います。

(委員)

選書の方針を事業概要に載せたらどうですか。

(事務局)

事業概要は年次報告の意味合いが強いため、現在のところ載せていませんが、検討させていただきます。

(委員)

廃棄については、どのような基準になっていますか。まだ十分きれいな本が除籍されていることもあります。

(事務局)

廃棄については画一的な基準はなく、担当ごとに協議して判断しています。複本の冊数や利用率を参考にするため、まだきれいな本でも、複本が多い、利用が少ないなどのことから除籍となる場合もあります。ただし、県内で当館しか所蔵していないラストワン資料や郷土資料などを誤って除籍しないよう、一律の基準を設けず、資料の分類ごとに判断しています。

(委員)

課題として若い世代の利用の減少がありましたが、若い世代向けの新しい取組はありますか。

(事務局)

スポーツ特集の展示を行うなど、切り口を変えて本の紹介をしています。また昨年度末は若い世代から、おすすめの本と家庭内での本を通じた交流の募集を行いました。今年度に入って、これを活用した展示を行っております。さらに、今年度は中高生からボランティアを募集するなどの新たな取組の実施を検討しています。

(委員)

具体的な成果はまだ出ていませんか。

(事務局)

展示などでは手に取ってもらえている実感はあります。今後は、自分たちから情報発信ができる中高生に協力してもらえたらと考えています。

(委員)

勉強の場として図書館に通う子の興味をどのように本に向けさせるか、読書の質をどう高めるかが課題です。子どもが喜んで読むということだけでなく、知的好奇心を刺激する取組を行っていただきたいです。

(会長)

図書館事業の見える化を行うこと、事業の評価・改善を行うことのほか、図書館に足を運ばない人や、興味がない人に対するもう一工夫が必要かと思います。今回の意見を活かした対応をお願いいたします。

## (2) 図書館システムの更新について

(事務局資料説明)

(事務局)

現行システムの課題や、他館の事例で良いものがあれば教えていただきたいです。

(委員)

I C タグでの貸出・返却はネットワーク館でも可能ですか。

(事務局)

ネットワーク館にどの程度導入するか検討中ですが、費用対効果の関係で、当初から全館に導入することは考えておりません。

(委員)

I C タグ導入のコストはどの程度になりますか。

(事務局)

I C タグの貼付と関連機器の導入で合わせて3億円程度となります。

(委員)

システム更新について、スケジュールの検討段階に利用者アンケートの実施とありますが、どのようなタイミングで行うのでしょうか。

(事務局)

秋ごろに実施する予定です。

(委員)

現在の機器をすべて入れ替えるのですか。

(事務局)

現行システムのリース契約期間が終了するため入れ替えとなります。

(委員)

5年ごとのシステム更新のたびに3億円かかるということですか。

(事務局)

3億円はI Cタグ導入のコストです。5年ごとにシステム更新しますが、I Cタグ関連機器についてはすべてを入れ替えるわけではありません。ちなみに現行のシステムは約2億円で導入しています。

(委員)

I Cタグ導入後、職員が常駐するカウンターは残るのでしょうか。

(事務局)

残ります。レファレンスなどに利用できる対面式のカウンターを各階に作る予定です。

(委員)

I Cタグ導入により正確なデータがとりやすくなると思いますが、人と人との関わりも残してほしいです。利用者と会話をしながら運営することで発見できる課題もあると思います。

(事務局)

導入当初は利用者を案内できるよう、誘導員を置くことを考えています。

## 5 閉会